



前田守一《木偶》1959年 当館蔵

学芸員によるミニレクチャー

2月28日(日)、3月13日(土)

各回14:00~30分程度

会場:当館講座室 定員:25名程度

先着順・申込不要・無料

※新型コロナウイルス感染症拡大状況により、  
変更や中止になる可能性があります。

# 日本戦後美術の

# 挑戦

伊藤隆史《壁ノ鳥》1958年 当館蔵



2021

1月26日 火 ▶ 4月4日 日

戦後、日本社会が復興する中、美術界もまた再興するとともに、美術を取り巻く状況に変化が起きました。すなわち、近代美術館の開館や、無審査のアンデパンダン展、国際展の開催、画廊の勃興、新聞社主催の美術事業の開催などです。そうした状況下で、芸術家たちは表現を根本から問い直すような挑戦を続け、作品を発表してきました。本展では、1950年代から1960年代にかけて制作された作品群を中心に、美術表現における挑戦の数々をご紹介します。

出品作品は、いずれも絵画や版画などの従来からあるジャンルに含まれますが、かつてない新しい表現の数々です。抽象絵画が多いですが、一口に抽象と言っても様々です。清川泰次や前田守一による作品のような、線を主体に構築された画面もあれば、嶋本昭三による《1961-3》のような絵具のしたたる不定形の形態が現れた画面もあります。具象絵画では、伊藤隆史による《壁ノ鳥》は、モチーフの愛らしさもさることながら、硬質な質感を持つ表面が、作品に存在感を与えています。

素材に目を向けると、絵具で描く代わりに新聞紙や釘を貼りつけた吉仲太造の《現代美術》や、大理石粉を使った宮脇愛子による彫刻のような《作品12》、つやつやしたエナメル塗料で描いた田中敦子の巨大な絵画などもあります。既成の表現を乗り越える、芸術家たちの挑戦の結実である作品群をごらんください。

同時開催  
企画展

ムーミン展 THE ART AND THE STORY 1月23日(土) - 3月14日(日)

美術館利用のご案内

開館時間 / 10:00~17:30

3月13日(土)、14日(日)は19:00まで開館(展示室への入室は18:30まで)

休館日 / 毎週月曜日

観覧料 / 一般300円(団体200円)、70歳以上および大学生以下無料

※企画展観覧券で、収蔵品展・ロダン館もあわせてご覧いただけます。

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方と付添者1名は無料。

〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2

ウェブサイト <http://www.spmoa.shizuoka.shizuoka.jp>

お問い合わせ [総務課] Tel: 054-263-5755 Fax: 054-263-5767 [学芸課] Tel: 054-263-5857